

〈研究発表2〉

心に響く修学旅行をめざして

—命と人権について考える修学旅行—

佐野市立葛生中学校 第3学年主任 石原佳宏

I はじめに

1 佐野市の紹介

佐野市は、栃木県の南西部に位置し東京からは直線で80kmの距離にある。江戸時代より江戸から日光への通り道である例幣使街道の宿場町として発展してきた町である。佐野市のシンボルともなっている唐沢城跡は、近年国立公園の指定を受けている。平成17年2月に佐野市、田沼町、葛生町が合併し、人口12万の都市になった。

北関東自動車道と東北自動車道がクロスする佐野新都市地区には、佐野プレミアム・アウトレットやイオンショッピングセンターなどがあり、休日には他県からも多くの買い物客を集めている。佐野ラーメンとイモフライ、昨年のゆるキャラコンテストにおいて1位となった「さのまる」など有名である。

2 学校紹介

(1) 学校概要

本校がある葛生町地区は古くから石灰の町として発展してきた地域である。昭和26年に制定された校歌にも「つきぬ資源よ、文化の糧よ、明日の日本の力がこもる」「今建設の喜びは我が学園に満ち渡る」等の歌詞が歌われ、戦後日本の経済成長を支える役割を果たしてきたことが地域の誇りとなっている。昭和22年の創立以来、多くの卒業生を輩出してきた。最も生徒数の多かった昭和30年代には1学年8学級を要する大規模校であったが、現在は、生徒数160名、各学年2学級の小規模校である。生徒は落ち着いた環境の中で学校生活を送っている。

67年にわたる学校の歴史の中で、武道指導、学力向上フロンティア事業、など、その時々先生方が熱心に研究に取り組み、様々な成果を上げてきた。

平成22年度に、佐野市の人権教育研究指定を受け、それ以後は、人権教育の推進を学校の最重要研究課題として取り組み、現在に至っている。

(2) 学校目標

自他の生命と人格を尊重し、人間性豊かな生徒の育成を目指す

○自ら学ぶ人 ○心身を鍛える人 ○自他を大切にすること

(3) 学校研究課題 (H24～H26)

自他のよさを認め、共によりよく生きようとする生徒の育成

～豊かな人間性や自尊感情を育成するための教育活動の在り方～

(4) 研究課題達成のため具体目標

- ①生徒の人権意識を育て、成就感や達成感を味わわせる行事の実践
- ②生徒の自尊感情を高め意欲的に取り組む事のできる授業づくり
- ③生徒が安心して学べる環境づくり(教師は生徒にとって最大の環境)

(5) 人権感覚の向上を目指す学校行事(主な行事の紹介)

【運動会に於ける伝統の原人太鼓演奏】

- ①原人太鼓やよさこいソーランなど、全員の協力により感動を呼ぶ表現活動に取り組みさせることで協力する喜びや、達成感(自尊感情)を実感させる。

(原人太鼓をみた保護者の感想)

原人太鼓の演奏を楽しみにしていましたが、今年の3年生は、人数も少なくうまくいくだろうかと心配でもありました。しかし実際の演奏を聴いて感動しました。人数が少ないことなど問題ではなく最上級生としての団結力と迫力を見せてもらい、本当にうれしかったです。



【強歩大会】佐野市内28kmを歩く。

- ①励まし合いながら歩くことで仲間との絆を深める。
②目的を達成することで、達成感を味わわせ自尊感情の育成につなげる。



【1年時の国際交流遠足、及び 全校生徒と日本語を学ぶ留学生徒の交流会】

- ①1年(5月頃)の遠足で午前中は東京の日本語学校で留学生徒の交流の時間をもち、午後はJICAを訪問し国際援助について学ぶことで国際交流への関心をもたせる。
②11月頃日本語学校の留学生を葛生中に招き、全学級で留学生徒との交流を楽しむ。外国の若者と偏見を持たずに交流することの楽しさと大切さを学ぶ。



II 修学旅行を広島へ（24年度に計画し26年度に実施）

※24年5月に校長より、広島への修学旅行が提案され学年で検討する。

1 広島への修学旅行を決定した理由

(1) 戦争の記憶を伝え、平和について考えさせることは教育の大きな役割である。

教育基本法第1条

人格の完成を目指し、平和で民主的な国家及び社会の形成者として必要な資質を備えた心身ともに健康な国民の育成を期して行われなければならない

来年で戦後70年を迎え、戦争体験の風化が心配されている。唯一の被爆国である日本人として被爆体験をどのように伝えていくかは教育の大きな課題でもある。当時、学徒動員として被爆した十代の少年たちが80歳を超える高齢となり、被爆者から直接話を聞くチャンスは日を追って失われる現状にある。

一方で人類にとって最も深刻な課題である核戦争の恐怖は、年ごとに大きくなっている。福島での原発事故の問題もあり、平和や核の問題について考える広島への旅は、未来を背負う子供たちに必要な旅であると考えた。

(2) 本校の教育目標、学校研究課題との関連から

本校の教育目標達成の具体目標の一つに「生徒の人権意識を育てる学校行事の実践」が挙げられている。生徒たちに「命、平和、人権」について考えさせるためには、様々な訪問地の中でも、広島が最も適していると考えた。

広島は、事前学習、当日の体験、事後の学習を通して、平和や人権の問題を考えるのに最適な訪問地である。

(3) 他教科との連携を図りながら平和学習を進めることができる。

原爆や広島にかかわる話題は様々な教科の教材として取り上げられている。

修学旅行で広島を訪問することで、これらの教科での学習をより深めることが可能となる。

国語 碑

英語 Lesson 4 The Story of Sadako

社会 歴史「第二次世界大戦」公民「世界平和に向けて」核拡散防止条約

(4) 高校の修学旅行先が変化し、広島を訪れる機会が減っている。

県立高校の修学旅行で飛行機の使用が許可されてから、広島への修学旅行を実施する高校が減り、このままでは多くの生徒が一生涯広島を訪れる機会のないままにすごしてしまう危惧もある。

【県内県立高校(61校)の修学旅行先 (H26年度)】

沖縄33、広島・阪神15、阪神3、九州5、北海道1、台湾1

【佐野・足利市内の高校の修学旅行 (H26年度)】

県立高校・・・(沖縄6 台湾1 九州1)

私立高校・・・(沖縄5、台湾2、九州3、関西1、広島1)

※私立については選択コースの学校もあり

2 事前の意識調査の結果 (2年生の5月に実施 回答数41人)

(1)戦争や、平和について考えたことがありますか？

A よく考える 1人	(2%)
B 時々考える15人	(37%)
C ほとんど考えたことはない 20人	(49%)
D あまり考えたくない5人	(12%)

(2) 原爆のことについて知っていますか？

①原爆の平和記念館に行ったことがある (3人)
②原爆の本や写真集を見たり読んだりしたことがある (14人) 碑、(1年生の国語の授業で) はだしのゲン、ピカドン
③DVD(ビデオ)、テレビ番組を見たことがある (19人)
④原爆が落とされた日本の都市はどこですか 広島 (35人・・・85%) 長崎 (30人・・・73%)
⑤日本に原爆を落とした国はどこ国ですか アメリカ (31人)
⑥原爆が落とされたのは次のうちどの戦争の時ですか 第2次世界大戦 (25人)

3 広島への修学旅行に向けての準備

(1) 事前学習で原爆の問題についての関心と理解を深める。

2年生5月(総合) 校長講話 「禎子のおり鶴」中学生と原爆

2年生(夏休み) 夏休み課題として「戦争と平和について」の本や、テレビ、DVDなどを視聴したりしてレポートを提出する。

※夏休み後、夏休み中の戦争関連の記事や生徒作品を学年の掲示板に掲示する。

2年生9月～12月 ①総合的な学習の時間に調べ学習を実施

事前レポートの作成

②道徳・学級活動の時間に映像を通して学習

☆ビデオ教材→「夏服の少女たち」「にんげんを返せ」

☆絵本教材 黒いお弁当

(2) 図書館に「戦争と平和のコーナー」を設置し、平和問題への関心を深める。

戦争と平和に関する書籍120冊(その内、原爆関係の図書約90冊)

(3) 該当学年職員の下見

- ・1年次の夏休み、職員が広島研修旅行に参加
- ・2年次の夏休み、担当学年主任と職員が下見の旅行に行く(半分自費)

(4) 保護者への説明

1年2月の保護者会 校長が保護者への説明を行い、理解を得る

2年7月の保護者会 修学旅行の趣旨を主なコースについての説明

3年4月の保護者会 修学旅行の最終計画を説明する

3年7月 修学旅行後に保護者アンケートを実施

【2 学年保護者会で配布した修学旅行についての資料】

広島への修学旅行について

平成25年7月3日(水)

【広島への修学旅行のねらい】

- (1) 「平和な時代」に生まれ育った子ども達に「平和」の大切さについて考える機会をもたせたい。命、家族など当たり前にあると思っていることへの再認識をさせたい。
- (2) 唯一の被爆国である日本人として「ヒロシマ」への認識を深めさせたい。
 - ・書物やビデオではなく実際にヒロシマに立ち、現地の人々の話を聞くことにより、歴史をより深く実感させたい。
- (3) これからの国際社会に生きる日本人としての自覚を育成したい。
 - ・世界の平和運動の原点になっているヒロシマを訪れることで、戦争と平和の問題に向き合う姿勢を育成する。
 - ・核問題への関心を深めさせる。(核兵器、福島原発の事故・・・)

【日程等】・・・現在検討中

26年 5月15日(木)～5月17日(土)

京都 → 大阪 → 広島(平和公園、原爆記念館、被爆者の体験談)

【戦争と平和についてのアンケート】

- (1) 戦争や、平和について考えたことがありますか？
 - A よく考える (1人)
 - B 時々考える (15人)
 - C ほとんど考えたことはない (20人)
 - D あまり考えたくない (5人)
- (2) 原爆のことについて知っていますか？
 - ①原爆の平和記念館に行ったことがある (3人)
 - ②原爆の本や写真集を見たり読んだりしたことがある (14人)
 - 碑、はだしのゲン、ピカドン
 - ③DVD(ビデオ)、テレビ番組を見たことがある (19人)
 - ④原爆が落とされた日本の都市はどこですか 広島(35人) 長崎(30人)
 - ⑤日本に原爆を落とした国はどこですか アメリカ(31人)
 - ⑥原爆が落とされたのは次のうちの戦争の時ですか 正解者(25人)

【ヒロシマへの修学旅行に向けての準備】

- 2年(総合) 校長講話 「禎子のおり鶴」中学生と原爆
- 2年(夏休み) 夏休み課題として「戦争と平和について」の本や、テレビ、DVDなどを視聴したりしてレポートを提出する。
- 2～3年(社会) 歴史「第二次世界大戦」
 - 公民「世界平和に向けて」・核兵器拡散防止条約など
- 3年(英語) Lesson4 The Story of Sadako

※総合や道徳で事前学習を進める。

【2年生の夏休みに作成した生徒のレポート】

【2年生の夏休みに作成した生徒のレポート】

戦争と平和

私の読んだ本・見た番組

<p>題名・番組名</p> <p>はたしのケン</p>	<p>作者名・編集者名・制作局名</p> <p>・中沢 啓治作</p> <p>・制作... フジテレビ</p> <p>・編集... 佐藤夏理</p> <p>読んだ日・見た日</p> <p>8月4日、8月5日</p>
-----------------------------	---



この本・番組の具体的な内容と感想

私は、「はたしのケン」を見て戦争は本当に怖いものだと思っ
ました。戦争で被爆した方は自分は何も悪くないのに...

こんなイメージの本・番組だよ。
こんな人物・建物etc...が出てくるよ。
(イラストで紹介しよう)



...と思ったと思います。また、戦争で親や子

家族をなくした方は本当に辛かたと思っ

ました。そして、戦争に出なくてはいけ

ない人はいやぞ、行きたくないけど...

「お国のため」と行き、家族も「ビンゴ」と

送り出すシーンを見て、私はすごく悲しくなりました。

だから私は、戦争のないこの時代に生まれて、

2年A組 番氏名

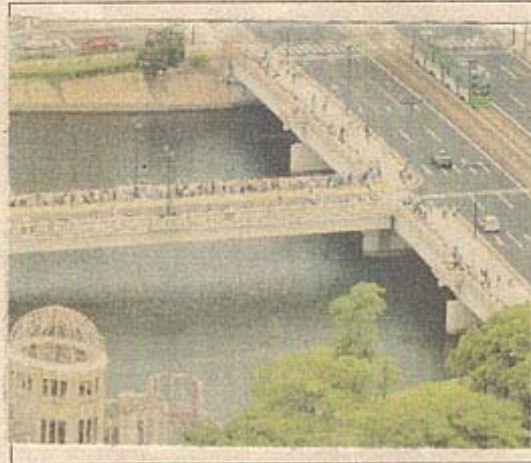
何事もなく毎日過ごしている事を幸せに思っ、大七かに
しなくてはならないと思っました。

名称

相生橋・旧相生橋阜

◎見どころ

広島市の中心を流れる太田川と元安川の分岐点に架かる平和公園の南に位置する三又橋です。



二つの橋がT字型に組み合わされており、広島市の東西の交通の要となっている。

ユニークな形であったため、上空から見やすく、原爆投下の目標にされました。



入館時間	
入館料	定休日
作成者	2年B組 番
名前	

Ⅲ 初めての広島への修学旅行の実施

1 日程

1 日 目	2 日 目	3 日 目
6:40 葛生駅集合	6:30 起床	6:00 起床
7:10 両毛線(小山へ)	6:40 朝食	6:30 朝食
8:46 東北新幹線 なすの268号	8:00 荷物の発送	7:40 荷物の発送
10:00 東京駅発 のぞみ221号	8:30 班別学習	7:45 ホテル出発(徒歩)
12:00 京都着	京都市内見学	8:00 平和公園 献花、黙祷
12:45 京都発	(タクシーで)	8:50 朗読会(祈念館)
14:00 USJ着	15:30 京都駅集合	10:00 資料館見学
19:00 USJ発	16:12 のぞみ113号	11:20 平和公園散策
20:29 京都着(泊)	17:30 広島着	11:45 ドーム前出発
	夕食(お好み広場)	12:44 広島発
	20:30 ホテル(泊)	19:30 学校着

※2日目は広島公園前のホテルサンルートに宿泊

2 修学旅行3日目、広島での活動の様子

(1) 7時45分にホテルを出発して徒歩で平和公園に向かう。

- ・美しく晴れ渡った広島朝は、吹く風も気持ちよくさわやかで、69年前の出来事が信じがたいことに思える。あの日、多くの被爆者が逃げまどった橋を渡り平和公園に向かう。
- ・慰霊碑の前では校長より説明を聞く。



(2) 慰霊碑に花を捧げ全員で黙祷を捧げる。

「安らかに眠って下さい。過ちは繰り返しませんから」の言葉が胸に響く。





(3) 原爆の子の像の前で黙祷。

- ・原爆の子の像の前に移動したとき、ちょうど原爆投下の時刻8時15分を迎える。公園内に静かなオルゴールの曲が流れ、静かにあの日の苦しみに思いをはせる。

禎子さんの物語が心によみがえる瞬間でもある。



- ・全員で折ってきた千羽鶴を捧げる。
- ・全国の人々の祈りを込めた鶴が飾られたケースの中を一つ一つ見て回る。様々なメッセージを読んでいた。



(4) 平和祈念館へ移動。

- ・平和の鐘をついたり、原爆ドームを眺めながら国立平和祈念館に移動。
- ・あの日、B29の投下の目印とされた相生橋の上に実際に立ってみる。



(5) 原爆の詩の朗読会に参加(50分)

- ・最初に原爆についてのDVDを視聴する。
- ・全部で5編の詩の朗読を聞く。心のこもった朗読に生徒も真剣に耳を傾けていた。
- ・生徒たちも一緒に詩の朗読をする。自分で読むことでより深く言葉の重みを感じる。



(6) 平和記念資料館の見学(1時間半)



・ガイドさんに案内をお願いする方法もあるが今回は、全員に音声ガイドをもたせて、班ごとの見学とする。見学の時間を1時間半とった。どの生徒も真剣にじっくり見学していた。新館と本館があり、禎子さんの鶴や茂君のお弁当箱は本館に展示してある。

← (入館時に音声ガイドを受け取る生徒たち)

・音声ガイドの声に真剣に耳を傾けながら展示物を見つめる生徒たち。



・被爆した中学生が着ていたボロボロの制服に見入る生徒たち。茂君の残した黒焦げのお弁当、3歳の子どもが遊んでいた三輪車、禎子さんが折り続けた小さな鶴など、被爆者の遺品が伝えるメッセージは生徒たちの心に響く。

(7) 帰路につく。

- ・原爆ドーム前から路面電車に乗り、広島駅に向かう。
- ・路面電車に乗ることも楽しい体験の一つとなった。



・広島から東京へ4時間の新幹線の旅であるが、昼食をとり、後はトランプなどで楽しく過ごすうちに東京についた。

3 修学旅行後の保護者アンケート (H26年7月調査 回答数40)

(1) 保護者自身が広島を訪問したことがある 23人 (58%)

小学生の時・・・1名 中学生の時・・・1名 **高校生の時・・・15名**
その他・・・5名

(2) 中学生が修学旅行で広島を訪れることについて

賛成・・・39人 反対・・・1人

【賛成の理由】

- 戦争の体験や悲惨さを実際に学ぶことは大変貴重であると思う。今の子ども達にとってそういう経験は必要だと思うから。
- 戦争という時代を知らない今の子ども達、原爆の怖さを知り、福島の問題にも関心を持ってほしい。
- これからの社会を担う子ども達に戦争や平和について考えさせることは大切な事。ショックを受けるかも知れませんが、机の上だけの勉強とはまた違う意味がある。
 - ・中学生なら、いろいろなことを理解できる年齢なので、戦争がどれだけの人を犠牲にするのか、原爆がどれだけ威力があり、被害にあった人がどういう気持ちで生きているのかを、後世に伝えていかなければならないことだし、忘れてはいけないことだと思う。
 - ・平和について深く考えることができる時期だから。
 - ・自分も実際に行ってみて考えさせられるものがあったから。写真や話しで聞くだけよりも、実際に目で見て触れた方が勉強になると思うから。
 - ・戦争を知らない子ども達にとって学ぶことが多い。
 - ・被爆国の国民として知っておくべきことだと思う。
 - ・被爆国の公民として勉強することはとても良い。敗戦国という日本の歴史を強く感じてもらいたい。
 - ・他に行く機会がなかなか無いから。
 - ・今は高校でも広島に行けることは少ないので、中学校の修学旅行で行くことはよいと

思う。

- ・被爆地を訪れる機会は、今の平和な社会を大切に思う気持ちを育てることに役立つと思う。
- ・原爆の恐ろしさを知り、平和な生活がどれほど素晴らしいものなのかを考えることができるから。
- ・実際の展示品を見ることによって原爆の凄さや怖さを理解することができると思う。
- ・日本の歴史に触れることによって、現在の自分たちの生活が安全で幸せなものであるかを感じることができたのではないかと思う。
- ・全てを理解できなくても実際にあった事実を知るには意味のあることだと思うので。
- ・戦争の悲惨さや命の大切さを学ぶことは大切である。

【反対の理由】

- ・高校でも広島に行くかも知れないし、日程が厳しくなるのであれば無理に行く必要はない。

(3)子どもが修学旅行から帰ってきて、広島のことについて話し合った。

話し合った・・・ 30人

話しをしなかった・・・ 9人

無回答・・・ 1人

【考察】ほぼ全員の保護者が、広島への修学旅行に賛成との回答を得た。また58%の保護者が、広島を訪問した経験があるが、その大半は高校の修学旅行での経験である。自分自身も広島でいろいろなことを考えた経験から、我が子にも広島を訪問し、平和や命の大切さについて考えてほしいと願う保護者が多かった。旅行の後、75%の親子が広島のことについて話し合うことができていた。

6 修学旅行後の活動内容

- (1)総合の時間に修学旅行での体験をもとに新聞を作成する。
学習室に掲示して、下級生の来年以降の参考とする。
- (2)国語の時間に修学旅行に関する俳句づくりをする。
- (3)人権週間中の朝読書の時間に、原爆記念館を訪れた生徒の作文（栃木県教育委員会編集）を読み、感想を書く。
- (4)全校生への修学旅行の報告。
 - ①校長室だよりで修学旅行の様子を紹介。
 - ②全校朝会でスライドなどをつかって広島への修学旅行の様子を紹介。
- (5)少年の主張コンクールで広島の体験について発表。
 - ・地区大会での発表。
 - ・文化祭で校内の生徒への発表。

平成 26 年 7 月 14 日

修学旅行新聞

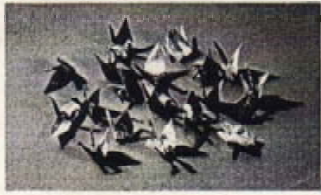
第 1 号

修学旅行新聞

学校 王子中学校
学年 A 組
形式 温子駒

広島平和学習

一九四五(昭和二十)年八月六日午前八時十五分、広島は世界で初めて原子爆弾による被害を受けました。街はほとんど破壊され、多くの人々の生命が奪われました。がうろけて生き残った人も心と体に大きな傷を負った。多くの被爆者が今なお苦しんでいます。



佐々木種子さんは、二歳の時に、

「ササキ」と折りました。

爆心地から約一六キロメートル離れた桶木町で被爆した。その後は、運動会やリレーの選手として活躍するなど、元気で活発な少女に成長しました。ところが、小学校六年生の秋から徐々に体調を崩し、翌年一九五五年(昭和三十)年二月、白血病と診断され、広島赤十字病院に入院しました。

折った花を牛羽折れば病気が治ると聞いた種子さんは、葉の紙などで、鶴

と折り続けた。その願いがなわめまま、同年十月二十五日、入カ月間の闘病生活の後、十二歳の短い生涯を終えられた。

と語り続けた。その願いがなわめまま、同年十月二十五日、入カ月間の闘病生活の後、十二歳の短い生涯を終えられた。

日本の文化再発見

五月十六日 京都 龍安寺。これは、私のお気に入りです。石庭が好きです。この石庭

五月十五日 USJはすごく楽しかったです。時に「スペース・ファンタジー・ザ・ライド」というアトラクションが印象深いです。これは、

たはなんて。この平和学習を通して、原爆の恐ろしさや、広島の人々の思いを知りました。また、平和について改めて考えさせられました。

は、東西二十五メートル、南北十メートルの空間に白砂を敷き詰め、十五の石を配したもので、見る場所により、見える石の数が違うのです。そして、十五個全部見られる場所が一つもありません。とても面白かったです。

美しい景色の間と縦横無尽に凍てつくアトラクションで、本当に宇宙に飛ぶような感覚に陥りました。最後に私の大好

家は、京都御守の守護と将軍上洛の際の宿泊所として造られたもので、絵画・彫刻・建築に、桃山から江戸への時代の移り変わりをよく見ることが出来ます。一九九四年(平成六年)には、ユネスコの世界遺産に登録されました。

二条城は、一六〇三年(慶長八年)徳川幕府初代将軍

まはUSJのキャラクターと絡められます。ピンクパンサーも可愛いです。



佐野市立葛生中
校長室だより
No. 3
H26・7・8

えが お



修学旅行報告 5月14日～16日

今年、始めて広島への修学旅行を実施しました。(略)宿泊は平和公園から歩いて5分足らずのホテルでした。3日目の朝、歩いて平和公園に、お天気は快晴。69年前の8月6日の朝と同じように真っ青なきれいな空でした。原爆の記念碑に花束を捧げた後、「原爆の子の像」に移動したところで、原爆投下時刻の8時15分を迎えました。公園内に静かな音楽が流れ、全員で黙とうをしました。原爆の子の像に全員で折った千羽ツルを捧げました。その後、原爆の詩の朗読会に参加し、最後に平和資料館を見学しました。

【原爆の詩の朗読会に参加して】

- ★原爆の詩の朗読会を通して考えたことは、広島や長崎で原爆の被害にあった人たち一人一人に夢や願いがあったはずなのに、その願いや夢をかなえることができずに、悲惨なやり方で命を奪われてしまったことが残酷だと思いました。
- ☆たくさんの人が苦しみながら死んだのだと思いました。誰だって戦争はいいと思っていないはずなのに、当時の日本は何故こんな爆弾が落とされるギリギリまで外国と戦い続けたのか、朗読会を通じて色々考えられてよかったです。(3A男子)

【平和資料館を見学して】

- ☆平和資料館では、あの日、被爆した人たちの遺品がリアルに残されていて、見ているととてもつらく重たい気持ちになりました。その日、原子爆弾が落ちることを誰も知らなかったのに、ほんの一瞬で、運命を変えられてしまった人たちの苦しむ姿が頭に浮かんできました。見ている私がこんなに痛々しい思いを抱くのだから、実際に被爆を体験した人たちの苦しみはどんなに大きなものだったのか、心の痛みがひしひしと伝わってきました。いろんな人に資料館を見て、戦争のことを考えて欲しいと思いました。(3A女子)
- ☆資料館で禎子さんの折ツルを見てとても心が痛くなりました。その他の展示物も原爆の恐ろしさをももの語っていました。一つ一つ見ていると何とも耐え難い気持ちになりました。このような出来事は二度と起こしてはならないと思いました。
- ★資料館の中に被爆した中学生がはいていた靴がありました。燃えて黒く焦げていました。禎子さんが折った鶴はとても小さくて、自分にはこんなに小さく折れないと思いました。禎子さんは病気が治ることを祈りながらツルを折ったけど、結局原爆症でなくなってしまうました。でもその後禎子さんの同級生が募金活動をして「原爆の子」の像を建てました。同級生の子ども達はすごいなと思いました。世界中の人に広島のことを知って欲しいと思います。(3B男子)

【少年の主張参加作品】

命と平和を考える旅

栃木県佐野市立葛生中学校三年

■■ ■■子

板と板の中に挟まっている弟、
うなっている。

弟は、僕に 水 水 といった。

僕は、崩れている家の中に入るのは、いや といった。

弟は、そのまま死んでいった。

あの時 僕は

水をくんでやればよかった。

今年五月、修学旅行で訪れた広島朗読会で、この詩を聞きました。兄は、弟に水をくんでやらなかった自分のことを一生後悔しながら生きていくのでしょうか。戦争は、生きている人にも、ずっと暗い影を残し続けるのです。弟を原爆で亡くした兄の悲しみがひしひしと伝わってくる詩でした。

平和記念資料館では、変形したお弁当箱と黒こげのごはん、焼けてボロボロの学生服、被爆した人の髪の毛や爪、被爆した人々が残した遺品を目の前にして私は自分の体が冷たくなるのを感じました。それらの品物は想像していた以上に私に強い衝撃を与えました。赤ちゃんに覆い被さったまま亡くなったお母さん、茶毘に付される山積みの死体。目を背けたくくなるような写真に、私の心は重くなり、逃げ出したい思いにかられました。でも、これは69年前に、広島町でおこった本当の出来事なのです。

初めて訪れた広島町は、大きなビルが建ち並び、原爆の投下が信じがたいほど美しい町でした。

私たちが広島を訪れた日は、抜けるような青空でした。8時15分になると公園にオルゴールの音色が鳴り響き、私たちも原爆の子の像の前で黙とうを捧げました。原爆の子の像のモデルとなった佐々木禎子さんは、二歳の時に被爆し、その十年後「中学校に入りたい」という願いをかなえることなく原爆症で亡くなりました。原爆の子の像は禎子さんが亡くなった後、同級生の中学生たちが募金活動で作ったものです。原爆の子の像の周りには、日本中の小学生や中学生が折った千羽鶴が、いっぱい飾られていました。私はそれらの鶴のモニュメントにつけられたメッセージを一つ一つ読んでいきました。原爆の子の像の周りを温かく包み込む何万羽もの鶴は、禎子さんの想いを引きついで、力強く平和を守ろうと誓う、日本中の子どもたちの気持ちなのだと思うと胸がいっぱいになりました。

禎子さんは原爆のために命を奪われましたが、禎子さんの想いは禎子さんから同級生へ、そして、原爆の子の像を訪れる私たちにと、引き継がれ、生き続けていると思いました。

「元気に学校に通うこと」「生きること」を願いながら病床で鶴を折り続けた禎子さん。私が、今当たり前前に送っている毎日こそが、禎子さんの願いそのものです。なのに、その幸せに何も感じなくなっている自分の傲慢さ。広島への旅は、私にそのことを気づかせてくれる旅でもありました。

修学旅行が終わってから、私は戦争に関するニュースについて今までよりも意識して見るよ

うになりました。戦争の特集記事は欠かさずに読んでいます。今はまずよく知り、考えることから始めようと思っています。

命の大切さについて考えること、差別やいじめをなくして平和な世界を目指すこと、このことは、禎子さんが生きられなかった未来を生きる私たちの、大事な使命なのだと思います。私たちが捧げた鶴が、本当に平和への誓いになるように努力していきます。

IV 広島への修学旅行の課題

課題 1 日程をどのように組んだらよいのか…先進校佐野西中の実践に学ぶ

【日程を検討する時の3つのポイント】

- 1 広島見学を1日目にするのか3日目にするのか。
- 2 広島滞在の時間をどの程度にするのか。
- 3 宿泊地をどうするか。(京都連泊 または 京都1泊広島1泊)

①平成18年度～平成22年度 関修委を抜けて独自に広島コースを実施

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
独自	佐野駅集合 5時10分 東京発 7時50分 広島着 11時49分 平和学習 広島泊	広島発 8時00分 京都着 9時45分 京都市内班別行動 タクシー利用 京都泊	奈良市内見学 主に奈良公園 クラスごとバス利用 京都発 13時46分 東京着 16時30分
メリット	①学校独自に日程が決められ、余裕をもって準備ができる。 ②広島での活動時間が十分にとれる。(平和学習に約5時間かけている)		
デメリット	①学校集合時間が5時頃と早い。 ②割引が無く、特急料金が5000円程度若干割高となる。 ③新幹線が一般車両のため、車内の活動は読書が主になる。 ④京都散策の班別行動の時間が十分に取れない。		

②23年度 関修委のAコースで実施(一日目広島に宿泊)

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
関修委 Aコース	東京発 7時40分 のぞみ101号 広島着 11時45分 平和学習朗読会 広島泊	広島発 7時44分 京都着 9時31分 京都市内班別行動 タクシー利用 京都泊	京都市内 延暦寺・嵯峨野・清水寺 クラス別見学 京都発 14時02分 東京着 16時23分
メリット	①全体の料金は、関修委に加入したことにより以前より安くなった。		
デメリット	①京都から広島までの往復の新幹線については学校独自に予約が必要で 特急料金の割引が受けられない。		

③24年度 関修委のAコースで実施(1日目も2日目も京都に宿泊)

	1 日 目	2 日 目	3 日 目
関修委	東京発 7時47分 京都で乗換	広島発 7時44分 京都着 9時31分 京都市内	京都市内 延暦寺・嵯峨野・清水寺

Aコース	広島着 11時55分 原爆ドーム等で平和学習 広島発 17時37分 京都着 19時14分 京都泊(京都駅前)	内班別行動 タクシー利用 京都泊	クラス別見学 京都発 14時02分 東京着 16時23分
メリット	①京都連泊となり荷物の移動がなくて済む。 ②京都での班別行動の時間が十分に取れた。		
デメリット	①一日目の夕飯が午後8時頃になった。		

④25年度 関修委を抜けて実施

	1日目	2日目	3日目
独自	東京発 10時00分 のぞみ221号京都駅 12:23分 京都・奈良班別行動 京都泊	京都市内班別行動 タクシー利用 京都発 16時13分 広島着 17時58分 広島泊	8:00 原爆ドーム 平和記念資料館 平和学習 広島発 12時44分 東 京着 16時53分
メリット	①学校集合が7:20になりゆとりがもてた。 ②朝の8時台に平和公園を訪れることで祈りの雰囲気により鮮明になる ③平和記念館の開館時刻(朝8時台)に入館できるので、館内が比較的空いており、見学や、写真撮影がゆっくりできた。		
デメリット	①京都での班別行動が忙しくなる。		

⑤H26年度 関修委Aコースで実施(ほぼ24年度とほぼ同じ日程)

※H26年度からは関修委のDコースとして、広島へのコースが新設されたが、西中ではあえてAコースを選択し、京都から広島までの新幹線については独自に予約をとる方法を選んでいる。

【佐野西中学校の校長先生の考察】

平和学習を目的とする場合には、京都と広島を比較することでほぼ目的が達成できる。また、ガイドさんや語り部さんの話を聞いたり、資料館の見学では生徒にとってかなり強烈な体験となり、肩にズシッと重いものを感じてくるようだ。また、折鶴献納や大地讃頌の合唱は感動的である。

広島を見学コースにとると若干新幹線等の乗車時間が長くなり、班別行動の時間が短くなる。修学旅行のコースを考えるときには、生徒たちに学ばせたいことなどの目的を明確にしてから検討するのが望ましいと考えている。

【2つの広島コースの長所と短所】

H26	1日目	東京発10:00 京都着12:00 ◇関西方面見学	京都泊
	2日目	◇京都班別行動8:30~14:30(6時間)	

	京都発 15:30 広島着 17:30	広島泊
3日目	◇広島見学 8:00～11:30(3時間30分) 広島発 12:44 東京着 17:10	

○長所

- ・ 1日目の午後と2日目にかけて関西方面の見学時間が十分取れる。
- ・ 3日目の朝に広島を訪問できるので、朝の平和公園を散策することができる。
- ・ 3日目の帰りの新幹線の中でゆっくり休養が取れる。
- ・ 関修委に入っているために比較的安価で広島まで行ける。

○短所

- ・ 広島訪問が3日目になるために講話の時などに生徒の疲れが出る事が心配。

H27	1日目	東京発 8:50 広島着 12:59 ◇広島見学 13:30～17:00(3時間30分)	広島泊
	2日目	広島発 9:45 京都着 11:31 ◇京都班別行動 12:00～18:30(6時間半)	京都泊
	3日目	◇関西方面見学 8:00～14:00 京都発 14:29 東京着 17:10	

○長所

- ・ 1日目に広島を訪問できるので、見学に意欲的に取り組める。
- ・ 1日目のスタートが以前より早くなりその分活動の時間が確保できる。

○短所

- ・ 2日目の広島発の時間が中途半端で計画が立てづらい。

(考察) 2日目の広島から京都への移動の新幹線を学校で自由に選べると、計画が立てやすい。①その日のうちに京都に行く。 ②2日目の広島発の時間を遅らせて 宮島まで足を延ばす、などの選択が考えられる。

課題2 被爆者の証言または被爆体験記朗読会、どちらを選択するか。

	被爆証言講話	被爆体験記朗読会
メリット	被爆された方が自分の体験談を話してる。実際に体験したことを聞くという、広島に行かなくてはできない貴重な体験となる。	詩の朗読が中心で元アナウンサーや俳優などプロの朗読家が体験記と詩を朗読し、生徒もいくつかの詩と一緒に朗読する。 朗読会の進め方もすみやかで、安心して任せることができる。
課題	かなり、高齢の方が多い。	

【講話についての考察】 葛生中のH26年度修学旅行では、時間などを考慮して、朗読会を選択した。しかし、事前に被爆者の方と会って綿密な事前相談ができるのであれば、やはり、直接被爆された方の講話を実施することが理想である。特に当時学徒動員生として被

爆された方々は、被爆時に、中学生と同じ年頃であり、その体験は同世代の子どもたちの心に大きく響く話となる。同じ高齢であっても、個人個人差があるので、できれば直接お会いして学校の意図を丁寧に説明できれば、より有意義な時間をもつことができる。証言者の年齢などを考慮してきめ細かな打ち合わせや配慮ができれば、すばらしい伝承の経験となる。

話を聞く態度など事前の指導が大切であるし、当日も講話をされる方の立場に立って、学校側が十分な配慮をすることが必要である。

V 終わりに

本校の広島への修学旅行は、24年度に赴任した校長の意向を受け、学年の職員で検討して決定した。計画の作成に当たっては、佐野西中学校や城東中学校など、先進校の実践に学ばせて頂くことが多かった。平成24年の夏から計画を検討し、平成26年5月に実施の運びとなった。

本校としては、初めての広島への修学旅行であったが、2年間の準備の成果で、トラブルもなく順調に計画を進めることができた。生徒の事後の感想や保護者アンケートからも、成果を確認することができた。事前の学習や準備ばかりでなく、修学旅行から帰った後の様々な活動も、修学旅行の成果をより確実なものにし、平和への思いを高める上で大切な役割を果たすものとなった。

修学旅行の訪問地を選ぶにあたって私たちが最も大切にすることは、この修学旅行で、生徒たちに何を感じさせ、何を考えさせたいのかという問題である。修学旅行も学校行事の一環であり、教育の一環である。今回の修学旅行は、本校の教育の中で最も大切にしている「人権感覚の向上を図る」という目的を十分に達成することができた。

旅行後の感想を見ると、それぞれの生徒の受け止め方には様々な違いも見られる。しかし、どの生徒にとっても、今回の旅は「被爆国の国民として何かを感じ、何かを考える」また「これからの社会を担う者として、真剣に歴史を振り返る」きっかけになったことは確実である。これからも長い時間をかけて生徒たちが、自分の生き方を見つめ直し、「人権、命、平和」について真剣に考え、真に平和な社会の建設に貢献できる人材として育てていくことを願いながら報告を終わりにしたい。